

食品安全情報（化学物質） No. 13/ 2025（2025.06.25）別添

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 第三室
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

「世界食品安全の日 2025」関連記事

※前号 No.12/2025 (2025.06.11)までに掲載された記事を除く関連記事をまとめたものです。

<参考>

- 消費者庁 コーデックス委員会ウェブサイト

世界食品安全の日（6月7日）

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/codex

- ツールキット日本語版

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/codex/assets/consumer_safety/cms203_250602_02.pdf

- 厚生労働省 コーデックス委員会ウェブサイト

世界食品安全の日（6月7日）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/codex/index.html

- 食品安全委員会 世界食品安全の日ウェブサイト

https://www.fsc.go.jp/sonota/world_food_safety_day_r07.html

- 農林水産省 世界食品安全の日ウェブサイト

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/kijun/codex/wfsd.html>

-
- 世界保健機関（WHO : World Health Organization）<https://www.who.int/>

1. 食品安全に関するヘルストーク

Health Talks on Food Safety

2-4 June 2025

<https://www.whofoodsystems.org/page/health-talks-2025>

2025年6月2日～4日、世界食品安全の日2025を記念して、食品安全に関するWHOヘルストークが主催され、今年のテーマ「食品安全:科学の実践」について掘り下げられた。

このヘルストークでは、

- 専門家の助言、負荷の推定、サーベイランス、検査システム、および世界的な協力について、科学がいかに食品安全の進歩を推進するかが強調された。
- WHO およびパートナー機関の第一線の声を取り上げ、科学的根拠がいかに政策を支え、介入策に情報を与え、より強く安全な食品システムの構築に貢献しているかが紹介された。

このヘルストークのプログラムは次のとおりである。本ウェブページにて録画ビデオを視聴可能である。

- 科学的助言を通じた食品安全の推進（6月2日）
- データからインパクトへ：食中毒情報を行動につなげるための4つの必須事項（6月3日）
- WHO 食品安全アライアンス：科学の実践の推進（6月4日）

-
- 国連食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations）
<https://www.fao.org/home/en>

1. Codex

- 世界食品安全の日／近東・東地中海地域の FAO と WHO がウェビナーシリーズを企画

World Food Safety Day / FAO and WHO in Near East and Eastern Mediterranean regions plan webinar series

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/events/event-details/en/c/1738353/>

WHO 東地中海地域事務局（WHO EMRO）と FAO 近東・北アフリカ地域事務所（FAO RNE）は、2025年5～8月に全11回のウェビナーシリーズを共催する。これらのウェビナーでは、科学者、研究者、政府高官、国際的な専門家、食品関係者を招き、すべての人に安全で健康的な食品を確保するための科学、技術革新、知識の活用について、それぞれの専門知識と見解を共有する。このウェビナーは、食品安全における根拠に基づく実践について包括的な見識を提供し、特にアラブ地域における次のような課題や新たな動向を取り上げることを目的としている。

- 効果的な食品安全対策を適用・実施するためのベストプラクティスを推進する。
- 食品安全に関する新たなトピックについて、食品安全専門家の能力を高める。

プログラム

- リスクアセスメントとエビデンスに基づく戦略で意思決定を強化する（5月26日）
- 情報に基づく意思決定のためのリスク・ベネフィット評価（6月2日）

- 革新的科学の実践：薬剤耐性への取り組み（6月16日）
- 食品安全研究機関を支える科学を解き明かす（6月23日）
- 消費者行動改善のための根拠に基づく戦略の研究（6月30日）
- 動物用医薬品残留物リスク評価のための JECFA ツールボックス（7月7日）
- 強固な国内食品管理システムの構築：FAO/WHO 食品管理システム評価ツールからの洞察（7月14日）
- 食中毒アウトブレイクの食品および環境アセスメント（7月21日）
- 食中毒サーベイランスの強化：キャパシティの決定と優先事項の特定（7月28日）
- 食品安全および食品取扱者の健康証明のための適正衛生規範（GHP）と HACCP ツールボックス（8月4日）
- 革新的科学の実践：新規食品ベースの肉、及び新規食品タンパク質（8月11日）

● **世界食品安全の日／FAO、ドバイ食品安全フォーラムで食品安全への科学に基づいたアプローチを強調する**

World Food Safety Day / FAO highlights science-based approaches to food safety at Dubai food safety forum

12/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1738969/>

2025年世界食品安全の日を記念して、FAOは、ドバイ政府及びアラブ首長国連邦(UAE) 気候変動・環境省が主催する第3回ドバイ食品安全フォーラムに参加した。テーマは「食品安全：科学の実践」であった。フォーラムには政府、学界、民間部門から国内外の関係者が参加し、公衆衛生を守り食品システムのレジリエンスを高めるための政策策定、リスク評価、調査方法に焦点を当て、食品安全システムの強化における科学の役割について議論した。

FAO 近東・北アフリカ地域事務所のシニア・エコノミスト兼地域プログラム担当官である Ahmad Mukhtar 氏は、食中毒の問題を軽減するために、根拠に基づいた行動をとる必要性を強調し、UAE がイノベーション、規制、関係者との協力を通じて食品安全システムを強化していると述べた。UAE 気候変動・環境省の Mohamed Saeed Al Nuaimi 次官は、国際的なベンチマークと科学的指標に基づき、食品管理システムを評価する国内指標を開発するための FAO との協力が進行中であると述べた。

このフォーラムでは、食品安全に対する科学的根拠に基づくアプローチの重要性と、国内および国際レベルでの協調の価値が強調された。

● **世界食品安全の日／地域ウェビナーで、アフリカのすべての人々に安全な食品を確保するための科学の重要な役割が強調される**

World Food Safety Day / Regional webinar underscores the critical role of science in

ensuring safe food for all in Africa

21/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1739435/>

世界食品安全の日 2025 を記念して、FAO アフリカ地域事務所 (FAO RAF)、世界保健機関 (WHO)、世界食糧計画 (WFP)、アフリカ連合アフリカ動物資源局 (AU-IBAR)、コーデックスアフリカ地域調整部会 (CCAFRICA) は合同で、2025 年 6 月 12 日に地域ウェビナーを開催した。ウェビナーには、政府の管轄当局、学界、研究機関、食品安全・品質試験機関の代表者など、アフリカの食品分野全体から関係者が参加した。このウェビナーは、食品安全管理の意思決定における科学の重要な役割について認識を高め、知識を交換するための場となった。また、科学的根拠に基づいた強固な食品安全システムを構築する上で重要な要素である、データ作成の取り組みを強化するためのベストプラクティスも紹介された。

基調講演では、質の高い科学的データの作成によりアフリカ地域が世界および地域レベルでのコーデックス規格の策定に成功した実践例が紹介された一方、コーデックスとの連携や科学的データの活用における課題も指摘された。ウェビナーではまた、アフリカ連合委員会が主導するイニシアチブであるアフリカアフラトキシン情報管理システム (AfricaAIMS) 及びアフリカ食品安全指数 (AFSI) など、食品安全データの作成と情報管理を支援する進行中のイニシアチブについての発表も行われた。

このウェビナーのキーポイントは、科学的根拠の作成は解決策の一部であり、この根拠を、公衆衛生を守り食品安全の成果を日々向上させる実践的行動に確実に反映させることが同様に重要であるということであった。

● 世界食品安全の日 2025 をウクライナで祝う

Celebrating World Food Safety Day 2025 in Ukraine

24/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1739535/>

世界食品安全の日 2025 を記念して、WHO ウクライナ事務所は、食品安全に関する意識向上を目的とした一連の一般参加型活動を実施した。世界食品安全の日の活動は毎年恒例であり、今年の取り組みでも食品安全プラクティスの重要性が改めて強調された。主な活動は次のとおりである。

- インスタグラムのストーリーズを使った対話型の食品安全クイズ。
- WHO の「5 Keys to Safer Food (食品をより安全にするための 5 つの鍵)」ビデオのウクライナ語版ナレーションを制作し、食品安全に関する重要なメッセージを訴えた。

● 世界食品安全の日／スペインが食品安全文化に焦点を当てる

World Food Safety Day / Spain focuses on food safety culture

22/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1739474/>

世界食品安全の日を記念して、スペイン食品安全栄養庁は「食品安全文化：理論から実践へ」と題する会議を開催した。この会議では、規制の枠組み、欧州委員会のガイドライン、欧州の食品安全当局責任者による食品安全文化に関するワーキンググループの進捗状況、アイルランド食品安全庁の経験などが取り上げられた。

食品安全文化は、規制を超え、より効率的なコミュニケーションを通じてすべての関係者と共通の考え方を共有することを可能にする。従来のアプローチを見直し、食品安全文化を食品関連企業の戦略的柱として認識することが不可欠である。人々が作業環境でどのように食品安全対策を認識し、適用し、強化するかを理解することで、公衆衛生を保証し、消費者の信頼を強化し、資源の持続可能性に効果的に貢献することができる。食品安全は技術的な責任だけでなく、集団的なコミットメントでもある。

会議では、食品安全文化の問題が行政や企業の観点から取り上げられ、課題が共有された。また、人々の思考、態度、行動を変えることの重要性が強調され、確実に持続可能な食品安全文化を構築するための考察、学習、協力の場となった。

● 世界食品安全の日／ポーランドは安全で持続可能な食品システムに関する国際対話をリードする

World Food Safety Day / Poland leading the international dialogue on safe and sustainable food systems

22/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1739472/>

2025年6月10日、欧州連合（EU）ポーランド代表部は、ベルギーのブリュッセルで、今年の「世界食品安全の日」のテーマに沿って、「食品安全：科学の実践」と題する国際イベントを開催した。ブリュッセルで開催されたのは、2025年前半ポーランドが、EU理事会のコーデックス関連作業の議長国を務めているからである。イベントには、FAOや世界保健機関（WHO）などの国際機関、EU機関、ポーランドおよびEU加盟国の専門家などが参加した。

議論では、ますます複雑化するグローバルな環境において、科学的根拠に基づいた、エビデンス主導のアプローチを食品政策、リスク管理、フードサプライチェーンのレジリエンスに適用することの課題と機会に焦点が当てられた。このイベントは、すべての人のために安全で持続可能かつ強靱な食料システムを構築するという共通の目的のための、対話、知識の共有、より緊密な国際協力のためのプラットフォームとして機能した。

- 世界食品安全の日／メコン地域キャパシティビルディングプロジェクト開始

World Food Safety Day / Subregional Mekong capacity building project launched

09/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1738788/>

2025年6月5日、メコン・インスティテュート（MI：カンボジア、中国、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムにより運営されている政府間組織）はニュージーランド外務貿易省（MFAT）と合同で、世界食品安全の日2025を記念し、タイのコンケンで、メコン CREATES（Mekong Capacity-Building for Resilient and Enhanced Agricultural Technologies and Food Systems）プロジェクト立ち上げのワークショップを開催した。ワークショップには、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの関係者が参加した。このワークショップでは、気候変動が食品安全リスクに与える影響が議論され、地域協力が促進され、持続的な協力を確保するための地域実践共同体が発足した。また、地域全体でのレジリエントな食料システムの構築に関する考察が行われた。

- 世界食品安全の日／食品安全：関係者の関与に焦点をあてた、ケニアにおける科学の
実践

World Food Safety Day / Food Safety: Science in Action in Kenya, with a strong focus on stakeholder engagement

21/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1739462/>

ケニアでは、世界食品安全の日2025を記念し、農業畜産開発省（Ministry of Agriculture and Livestock Development）が主導し、国家食品管理システム（National Food Control System）の主要メンバーと協力して、イベントが開催された。イベントには、政府省庁、民間セクター、開発パートナー、科学機関などが参加し、国全体で食品安全を推進するための協調的な取り組みが行われた。世界食品安全の日2025を祝うにあたり、ケニアには「食品安全はすべての人の責任であり、科学はそれを推進する原動力である」という明確なメッセージがあった

科学的協力を活性化するバーチャルウェビナー

食品安全における科学と、科学がどのように食品安全の意思決定につながるかについての理解と応用を深めることを目的とした2つのハイレベルなウェビナーが開催された。6月4日には、政府機関により、ケニアの国家食品安全フレームワークを科学がどのように支えているかについての関係者向け教育ウェビナーが開催された。サーベイランスの役割、リスク分析、試験機関での検査、コーデックス規格に基づく政策立案についてのプレゼンテーション

オンが行われた。6月5日には、民間セクターと開発パートナーが中心となって、食品安全の課題を解決するために科学に基づくソリューションをどのように適用しているかを紹介した。食品業界の関係者は、品質保証、衛生管理、トレーサビリティ、意思決定におけるデータの活用に関する研究やイノベーションを紹介した。

ケニア基準局の活動

ケニアのコーデックスコンタクトポイントであるケニア基準局（KEBS）は、フードチェーン全体の関係者の意識と能力を高めることを目的とした一連の戦略的普及イベント（食品添加物に関する一般規格（GSFA）普及ワークショップなど）を実施した。

● 世界食品安全の日／インド規格ウェビナー：「食品安全のための研究主導型規格」

World Food Safety Day / India standards webinar: ‘Research-driven standards for food safety’

11/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1738907/>

インド標準規格局（Bureau of Indian Standards: BIS）の食品・農業部は、世界食品安全の日を記念して、2025年6月10日に「食品安全のための研究主導型規格」に関するウェビナーを開催した。このウェビナーは、今年の世界テーマ「食品安全：科学の実践」に沿って実施され、食品安全規格の策定における科学研究の重要な役割が強調された。研究機関、学術機関、食品業界から125名以上の関係者が参加した。

ウェビナーでは、研究に基づいた根拠を国の規格化の枠組みに組み込むことの重要性、食品安全規格における栄養科学とリスク評価の役割、食品安全の規格化のための研究主導型アプローチを推進するBISの取り組みなどについて、発表が行われた。また、テクニカルセッションでは、最近の研究プロジェクトの成果として、微量栄養素のより正確な定量分析法の開発、食肉の種類をその場で認証するためのスマートフォン一体型のラテラルフロー免疫測定法の開発、保存中の卵の鮮度を評価するためのパラメータ設定などが紹介された。

● 世界食品安全の日がトルコで祝われる

World Food Safety Day Celebrated in Türkiye

11/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1738903/>

世界食品安全の日2025を記念して、6月3日、トルコ農林省食品管理総局が主催するイベントが開催された。国際機関、公的機関、学界、市民団体、食品業界の代表者など、幅広い参加者が集まった。

「食品安全における科学の役割：理論から実践へ」、及び「情報汚染」の2つのテーマで

パネルセッションが行われ、食品安全分野における新たなリスク、科学的解決策、コミュニケーションの課題などについて議論された。食品管理総局は、全ての人々が安全な食品を入手できること、及び食品安全がより健康的な未来のための共同責任であることを保証するコミットメントを再確認した。

● **世界食品安全の日／エクアドル当局が食品安全のためのセミナーとランを開催**

World Food Safety Day / Ecuador authorities hold a seminar and a run for food safety
11/06/2025

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/world-food-safety-day/wfsd-news/news-details/en/c/1738902/>

6月4日、エクアドルの植物検疫規制庁である Agrocalidad は、米州農業協力研究所 (InterAmerican Institute for Agricultural Cooperation : IICA) と共同で、エクアドル食品安全リスク分析委員会の設立を推進するため、「科学の実践」と題した第9回食品安全セミナーを開催した。学生、農業生産者、公共部門などの250人以上が参加した。

また、6月6日には、世界食品安全の日のための5キロレース（第3回）が開催され、120人以上が参加した。

● **欧州食品安全機関（EFSA : European Food Safety Authority）**

<https://www.efsa.europa.eu/en>

1. **世界食品安全の日 2025 : EFSA は「科学の実践」を祝う**

World Food Safety Day 2025: EFSA celebrates “Science in Action”

6 June 2025

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/world-food-safety-day-2025-efsa-celebrates-science-action>

EFSA は6月7日の世界食品安全の日を国際社会と共に祝う。この日はサプライチェーンの全ての段階で食品の安全性を確実に維持するという共通責任について考える機会である。今年のテーマ「食品安全：科学の実践」は、消費者の保護並びに食卓に上る食品の信頼構築における科学の重要な役割に焦点を当てる。

EFSA では、科学は公衆衛生保護という使命の核である。リスクを評価し、根拠に基づく助言を提供し、欧州全域の効果的な食品安全対策の策定を支援するために最先端の科学的知見の応用に取り組んでいる。

この機会を記念して、EFSA は、科学に基づくアプローチが食品安全の課題にどのように対処できるか、食品由来リスクをどのように予防できるかについての認識を高めることを目的とした様々なコミュニケーション資料を発表する。これらの活動は、EU 加盟国と協力

して実施されている共同キャンペーン Safe2EatEU の枠組みでも推進されている。

資料：

- EFSA の主任研究者である Carlos das Neves 氏の、レギュラトリーサイエンス、食品安全における科学的根拠の役割、EFSA の科学者の日々の活動についての洞察を取り上げたポッドキャスト。
- 国家レベルでのアウトリーチを支援する Safe2Eat キャンペーンの一環として加盟国に提供されるカスタマイズ可能なコミュニケーション資料。
- 科学に基づいたシンプルな行動を通して一般的な食品取扱習慣をどのように改善できるかを示した、「ビフォア/アフター」のソーシャルメディア形式を用いた、ポーランド、スペイン、ルーマニアのインフルエンサーによる動画シリーズ。

世界食品安全の日を祝して、EFSA は、6月7日前後に世界保健機関(WHO)、EU加盟国及びEU加盟前の国が主催した一連のイベントや会議に参加した。イタリア、ポルトガル、トルコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、北マケドニアでの参加は、公衆衛生保護のための科学に基づく食品安全の重要性について、国際機関、各国当局、利害関係者及び一般人と繋がる貴重な機会となった。

EFSA は、欧州と近隣地域における知識の交換や食品安全基準の整合を支援することで、国際協力や能力構築への関与を明確に示している。これらの取り組みは、食品安全の共有文化を育て、我々が食べる食品が安全であり続けることを保証するのに不可欠であり、EUの消費者の利益のために具体的に科学を行動に移すものである。

● 香港政府ニュース <https://www.cfs.gov.hk/english/index.html>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載していません。

1. 食品安全の日 2025 は交差汚染防止の重要性を強調する

Food Safety Day 2025 highlights importance of preventing cross-contamination

07 Jun 2025

https://www.cfs.gov.hk/english/press/20250607_11642.html

食品安全センター (CFS) は、世界食品安全の日に合わせて「食品安全の日 2025」のキャンペーンを開始し、食品の安全確保における交差汚染防止の重要性を強調し、CFS の今年の食品安全の日のテーマとした。このキャンペーンは、食品事業者と一般市民に対し、生の食品と調理済みの食品を分けて取り扱うなど、適切な衛生管理と食品取り扱い方法を実

践することで、食中毒のリスクを軽減できることを改めて認識してもらうことを目的としている。

● シンガポール食品庁（SFA : Singapore Food Agency）<https://www.sfa.gov.sg/>

1. 世界食品安全の日 2025 : より安全な食品を支える科学

World Food Safety Day 2025: The science behind safer food

07 Jun 2025

<https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/world-food-safety-day-2025>

食品安全は世界的な懸念事項であり、協力的な対応が必要である。「Food Safety: Science in Action（食品安全：科学の実践）」をテーマとする今年の世界食品安全の日は、公衆衛生を守るために科学的知識を実践的に応用することの価値を再認識するものである。シンガポールの今年の世界食品安全の日では、食品安全における重要な役割を担う食品業界を支えている科学の実践と、なぜ誰もが役割を果たす必要があるのかを探る。サプライチェーン全体にわたる安全リスクの管理において重要な役割を果たすのは食品事業者であり、シンガポール食品庁（SFA）は、国立食品科学センター（NCFS）を通じて、食品業界の取り組みを支援するための試験、研究、リスク評価を提供している。

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室